

富士特別支援学校富士宮分校 令和7年度 第1回 学校運営協議会

【報 告】

1 学校運営協議会委員（敬称略）

山元 薫	（やまもと かおる）	静岡大学准教授
遠藤 久仁子	（えんどう くニコ）	富士宮市社会福祉協議会事務局次長
関澤 新一	（せきざわ しんいち）	株式会社大一セラム 代表取締役
竹山 幸男	（たけやま ゆきお）	琴平区長
小谷 和之	（こや かずゆき）	静岡県立富士宮北高等学校長
鈴木 明哲	（すずき あきのり）	令和7年度PTA会長

【教職員】

高田 宗享	（たかだ むねたか）	校長
若松 唯晃	（わかまつ ただあき）	教頭
村松 昇	（むらまつ のぼる）	高等部主事
大河原 明希子	（おおかわら あきこ）	教務主任

2 次第

- (1) 開会 進行（教頭）
- (2) 校長あいさつ（高田校長）
- (3) 任命状交付（高田校長）
- (4) 自己紹介
- (5) 学校運営協議会会長、副会長の選任（教頭）
- (6) 令和7年度 学校経営計画について（教頭）
・学校経営計画について ・学部教育活動について
- (7) 校内参観（部主事）
・北嶺祭体育の部 集団演技
- (8) 議事 司会：会長
① 学校経営計画の承認
～協 議～
② 「生徒と教師の想いの実現に向けて」
- (9) コンプアライアンス委員会
・令和7年度不祥事根絶取組計画
- (10) 閉会（教頭）

○校長あいさつ

令和6年度末人事異動にて、教職員が大きく変化しての令和7年度スタートとなった。管理職、部主事、学年主任も新しくなった。変えていくチャンスでもある。運営協議会委員皆様にお力を貸していただきたい。

○任命状の交付 ～各委員に校長より交付～

○自己紹介

○学校運営協議会会長 副会長の選任

会 長 山元 薫 様

副会長 鈴木 明哲 様



○学校経営計画 学部教育活動について(教頭)

生徒の状況(卒業生の進路先含) 教職員の構成

学校経営計画の説明 学部目標 これまでの教育活動



○議事(進行:山元会長)

【学校経営計画について①】

遠藤様)インスタグラムは楽しそうな様子が見える。一生懸命に頑張っているのに、生徒が減少していることは残念である。発信を工夫していけるとよい。

関澤様)学校と地域の評価のずれがある。進学を前にした中学生の保護者や生徒が学校のことをどの程度理解しているのか考えて発信をしていく必要がある。学校の中身を知らない保護者が圧倒的に多いのではないかと。発信の方向性を明確にしていくことが大切。

鈴木様)中学校の支援級の保護者とのつながりがあるが、学校のイメージがわいていない保護者も多い。とりあえず、通信制にいくという保護者もいる。正しく理解したら選択肢に分校があった生徒もいる。授業の様子も発信できるとよい。

山元様)インスタグラムには、生徒が「どのように感じたか」「何を学んだのか」「何を考えたのか」が発信されるとよい。例えば、交流会とは何か…。主体は生徒なのか、教師なのか…。行事の説明が入っていると一般の人にもより伝わる。写真はわかって、発信したいことがわからなく、今の投稿だとキャッチが難しい。

(授業参観の時間のため、経営計画については一時中断)

○授業参観

北嶺祭体育の部で行う集団演技を富士宮北高校グラウンドにて参観



○議事(進行:山元会長)

【学校経営計画について②及び授業参観について】

鈴木様)1年生が入学して2か月だが、先輩たちと協力して取り組んでいた。分校のチーム力を実感できる内容だった。別の場所での発表があるとよい。

関澤様)生徒の演技に感動した。教師の指導力が高いレベルにあると感じた。経営の内容は問題ない。先日、東京都立川市で不審者の事件が起こった。不審者の対応については確認が必要だと思う。保護者が呼んだ人をどこから不審者とするのか。例えば、酔っぱらった人はどうするのか。とても難しい判断が求められるため、教員の中でどのように線引きするのかを検討、共通認識しておく必要がある。

小谷様)生徒の様子を見る大切さを改めて感じた。見てわかることが多い。高校との接点の中で、教員が生徒を見る機会をお互いにつくる必要性がある。日常の様子から学ぶことも多い。富士宮北高の教員も特別支援教育に対する理解や意欲が向上している。このような時期だからこそ、接点をもてる工夫が必要であり、「つなげる」ことを進めていきたい。

高校での動きとして、富士宮4校で学校間連携を進めていく。地域の人へどのようにアピールし、どのように富士宮を盛り上げていくのか検討している。4校で連携を結び、地域に発信していくことを検討している。来年の体育祭には、4校で2400人が集まって行うことも考えている。

竹山様)防災訓練の実施について、分校と連携をとっていきたい。夏と12月の2回防災訓練を実施するが、12月7日の訓練を分校とどのように連携するのか相談していきたい。

生徒のフラッグの演技は自治体でも連携できないかと考えた。例えば、11月に山車で区内を練り歩く機会がある。区民は宮踊り、生徒はフラッグなど、上手くやれる方法を考えていきたい。

遠藤様)今は、思わぬことが起きる時代であり、分校の中ではよくても、社会との接点の中ですり合わせが難しくなっている。これからの生きていく力や価値、生きていく軸をどのように育てていくのか考えていく必要がある。

山元様)特別支援学級の先生方も含めて、分校が100%就労を目指していたイメージは地元に根強く残っている。全人的な教育をしているといことをどのように発信するのが大事になる。また、バランスよく教育を行うこともよいが、一方で一点突破の部分もあってもよい。生徒が自信満々にやっていけるものがあることも大切ではないか。富士宮分校といたら「〇〇!」という部分が弱い。生徒の心の中に、分校といえば「〇〇!」が出てきて、力を自信に変えていく仕掛けづくりが必要。そして、きちんと地域に伝えていく。

経営計画に「守る」「安全」はあるが、「安心」がもう少しあってもよい。生徒が「頑張っていることが認められる」「失敗しても大丈夫」等のことを意図的に入れていくことが、生徒の回復力につながる。「機会」「成就」「安心」「自信」がサイクルとなるような仕掛けが大事。経営計画の中で散在している記載を集中して記すことが必要。

校長)富士特支3校で「尊重し合える学校」ということを教師間、保護者間でも大切にしている。先日の事件で、学校は児童生徒を守れているのかという報道であったが、



本来の論点は、なぜ、呼ばないといけない状況になってしまったのか、ではないかと感じている。もしかしたら、学校に対して無理難題があったのかもしれない。学校をどのように守るか、先生方の人権をどのように守るか、ということも非常に重要だと思う。

※委員の皆様からたくさんの御意見や御感想を伺うことができました。

承認

○協 議

「笑顔あふれるあたたかな学校」に向けて
生徒と教師の想いを実現させるために

部主事)「笑顔あふれるあたたかな学校」に込めた想い

- ・昨年度卒業式の答辞の言葉から、生徒にも想いを伝えた。
- ・笑顔だけではなく、真剣な態度も含んでいる。
- ・生徒総会で生徒自らが本テーマで協議することを決めた。生徒主導の挨拶運動やランチ会がすでに実施された。点と点をつなぎ合わせて、具現化していきたい。

関澤様)「笑顔あふれるあたたかな学校」にしたいということは、逆のイメージを持っている人がいるのだろうか。または、別の環境にいたからなのか。昨年度の答辞の言葉は、生徒会長の経験談からの言葉だと感じた。仲間意識をもって誰一人おいてけぼりにしない校風のあらわれと感じた。生徒がこのような想いで生徒総会をしているのならば安心だと感じた。

鈴木様)分校に受験する時点で、ハードルが高いイメージをもっている。職業訓練がすごい場所で、特別支援学級のエース級の生徒が行くというイメージがある。子供たち自身もプレッシャーを感じていることもある。1年生の1学期は特に緊張感があり、親も精神的な疲れをかけてしまっていた部分もある。今年の1年生が生徒総会で意見を言っていたことは好循環につながるのではないかな。

山元様)「どのような学校にしていきたい？」と投げかけたとき、生徒はどう理解し、どのようなイメージを心の中に描くのか。何を生徒から引き出したかったのか。何を吸い上げたかったのか。生徒に何を考えてほしかったのか。

部主事)生徒が心から笑っている写真や、球技大会の様子、北高生の活動などを伝える中で、自分たちもやってみたいと考えていた。そのような姿を引き出していきたいと考えた。

関澤様)どのような会社になりたいか従業員に聞くことではない。どのような会社にしていこうか考え発信するのは経営者の仕事。日常の従業員の様子や会話から考えることもある。本社で掲げているものは「自分の子どもを就職させたい会社」。親子で働いている社員もいる。

遠藤様)行政でも人はそれぞれとすることはある。ランチ会やレクリエーションが苦手という生徒はどうするのだろうか。そのような生徒が



いることは普通であり、みんなが一緒にないといけないということではない。安心・安全と sentir 居場所が重要。

竹山様) 個の集まりの中で、初めての場所に馴染むまでには時間がかかる。人間関係がやはり大事であり、積極性があることに関心を向けていく。一人一人をどのように尊重して、認め合うのが大事だと思う。

関澤様) 先生方と生徒の想いが通じ合い、意見に出したことを実行している。そのことをみんなで認めたり、ほめたりするなど、入り口は出来上がっている。あとは、先生方の想いをどのようにのせていくか。のせすぎてしまうのは違う。道から外れそうなときに支えることが必要。

竹山様) 生徒はアピールする場を自分たちで探すことが難しい。アピールする場を教師がサポートし、生徒に機会と場を提供する。

鈴木様) 地域のお祭りでの販売などが中学校ではあった。分校は宮分マーケットくらいで、発信の場がないため、知られていないのではないかな。

竹山様) 市役所、社協、体育館等の公共の施設も使いながらアピールの場を作ればよい。

小谷様) 高校の図書室は使ってもらいたいし、もっと開放していきたい。辞典や資料集などが中心となっており、難しいが資料としては面白い。

自分で「これができた」という経験で笑顔になれる。

山元様) 生徒から出てきた言葉というのは、生徒がキャッチしていることであるから、その考えをうまく使うことが大事。失敗しても学んでいければよい。

重要なのは、教員どのようにとらえるのかということ。一人一人の教員の中にもどのような考えがあるのか。経営計画をもとに、教員一人一人がどのように思っているのか共有することが大切。

校長) 生徒が毎日登校していることがあたたかい学校だと思う。生徒には様々な背景があり、マイナス面も抱えている。そのような負の部分も包み込んでいける学校でありたい。



○コンプライアンス委員会

☆令和7年度不祥事根絶取組計画の説明 教職員の生徒指導に係る共通ルール

☆4月5月の取組について

鈴木様) 生徒間のトラブルでは、SNSトラブルは受け取り方でいかようになってしまう。ツールを使わないと本音が出せない生徒もいるのも事実。闇バイト等の通知も子供のところに流れてくる。学校から生徒への発信も定期的にしてほしい。

山元様) 不祥事がおきるとき、職場の安心感の欠如と自覚がうすれることで、判断が自

己流になるということがある。職員室の風通しがよく、雰囲気も良い。一方、自覚は規模が小さい組織では自己流になりやすい。バランスが難しいところで、仲が良すぎても、よくないこともある。視覚化して発信していくことはよい。
小谷様)不祥事を起こした人の中で、心からやろうと思っていないパターンが多い。大切なことは孤独にしないこと。ストッパーになれる存在があるか、誰の顔を思い浮かべることができるかということが大事。

○閉 会

表現方法や言葉、ワード等で正確ではないところ、また発言内容を一部解釈し、変換した表現になっている部分もあります。 御理解御了承いただきますようお願い申し上げます。
--

次回のお知らせ

～第 2 回学校運営協議会～

日時 令和7年 11 月 12 日(水)午前 9 時から午後 11 時まで(予定)

内容 地域資源の活用

前期学校評価から今後の課題について (案)